

九千部岳・田代原の 自然ガイド

雲仙あちこちガイドシリーズ⑤



●リンドウ

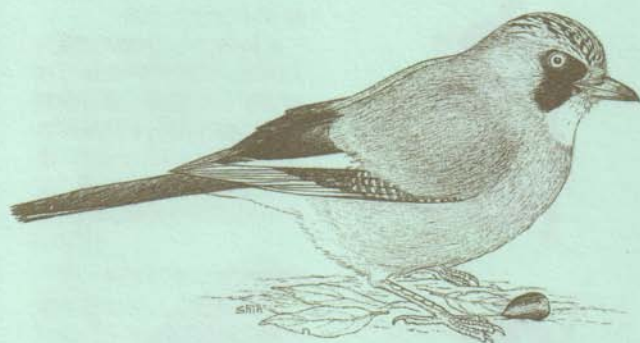
●ヤマボウシ

自然公園でのルール

- ① 植物や動物、鳥、昆虫などとはらずに観察する。
- ② 自然の美しさを保つため、ゴミは必ず持ち帰る。
- ③ 歩道、広場など定められた場所以外に入らない。
- ④ 大声をあげたり、ラジオなどを鳴らしながら歩かない。

九千部岳・田代原の 散策ガイド

雲仙あちこちガイドシリーズ⑥



●カケス

自然保護憲章

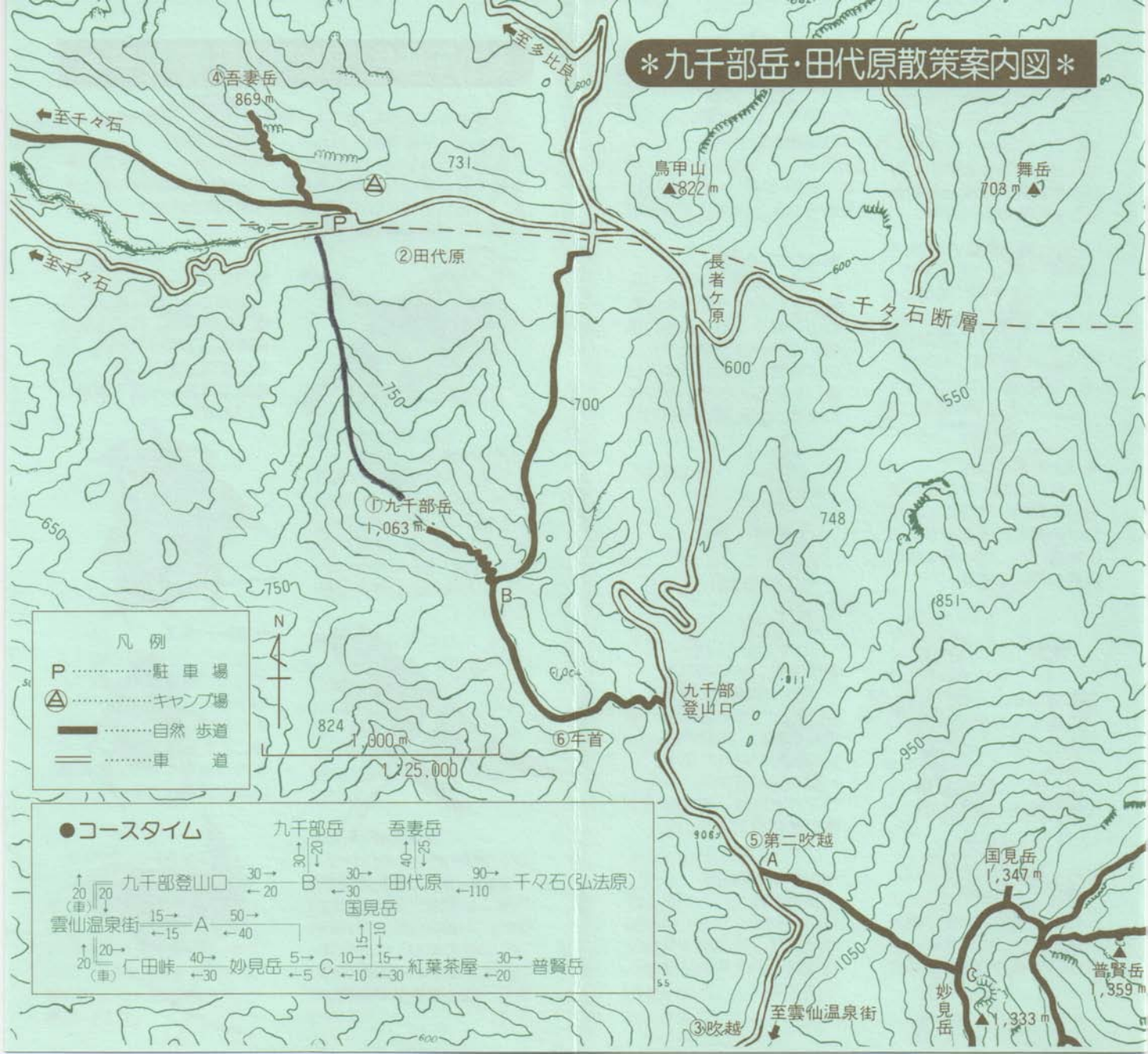
自然をとうとび、自然を愛し、自然に親しもう！
自然に学び、自然の調和をそこなわないようにしましょう！
美しい自然、大切な自然を永く子孫に伝えよう！

監修／雲仙公園ビジターセンター・環境庁国立公園管理官
発行／財団法人 自然公園美化管理財団雲仙支部

自然公園美化管理財団は、駐車場等の施設利用料により、国立公園の美化清掃や公園施設の維持管理を行なっています。

〒854-06 長崎県南高来郡小浜町雲仙320 ☎(0957)73-2642

九千部岳・田代原散策案内図



凡例

- P 駐車場
- △ キャンプ場
- (thick) 自然歩道
- (thin) 車道

コースタイム

Start	End	Distance	Direction
九千部登山口	田代原 (B)	30	→
田代原 (B)	九千部登山口	30	←
田代原 (B)	吾妻岳	30	→
吾妻岳	田代原 (B)	30	←
田代原 (B)	千々石(弘法原)	90	→
千々石(弘法原)	田代原 (B)	110	←
雲仙温泉街	田代原 (A)	15	→
田代原 (A)	雲仙温泉街	50	←
田代原 (A)	国見岳	40	→
国見岳	田代原 (A)	15	←
仁田峠	妙見岳	40	→
妙見岳	仁田峠	30	←
妙見岳	紅葉茶屋	5	→
紅葉茶屋	妙見岳	5	←
紅葉茶屋	普賢岳	10	→
普賢岳	紅葉茶屋	15	←
紅葉茶屋	普賢岳	30	→
普賢岳	紅葉茶屋	20	←

九千部岳・田代原のみどころ

① 九千部岳(1,063m)

山頂からは、千々石湾(橋湾)や千々石断層、島原半島の西北部と妙見岳、国見岳、温泉街が眺望でき、南側の深い谷の新緑、紅葉の眺めも素晴らしい。

② 田代原

九千部岳と吾妻岳に挟まれた千々石断層上の盆地で、牛が遊ぶ草原です。150万本のミヤマキリシマの群落があり、千々石町が管理する*キャンプ場があります。

*申し込み先 千々石町役場 ☎0957-37-2001

③ 吹越

春から夏にかけてキビタキ、オオルリなど野鳥のコーラスが素晴らしく、バードヒアリングの絶好地です。6月のヤマボウシの花や新緑、紅葉も素晴らしい所です。

④ 吾妻岳(870m)

切立った断層崖を登り山頂に立つと、北側のなだらかな傾斜の裾野と、南側の足がすくむような崖とが対照的で、九千部岳や雲仙岳三峰の眺望も素晴らしい。

⑤ 第二吹越

東側の谷と国見岳、妙見岳の新緑や紅葉の眺めが特に素晴らしい所。また東側の谷はヤマボウシの花が最も見事な所で、自然のまま残しておきたい場所のひとつです。

⑥ 牛首

登山口から10分、視界の開けた鞍部が牛首です。ここの樹木は強い西風で、成長が阻害され樹高が低く、風でねじ曲げられています。ミヤマキリシマが多く、西側の谷間には千々石湾が望めます。

雲仙地溝と千々石断層

千々石断層は、島原半島の中央を東西に横切る雲仙地溝(幅約8km)の北縁に当たる断層で、南側(九千部岳側)が、200m以上も落込んでいる断層です。

雲仙地溝は、九州の中部を東北東-西南西の方向に斜断し九州を引裂きつつあると言われる別府-島原地溝帯の西の一部分に当たります。この別府から九重、阿蘇、熊本を通り島原半島にいたる大陥没地帯の幅は20~30kmで、長さは約150kmにも達します。

九千部岳山頂からは、千々石断層の断層崖をよく見ることができ、西は愛野展望所附近から鉢巻山、吾妻岳、鳥甲山、舞岳を通り、東は島原の眉山までこの断層をたどることができます。

断層崖の高さは、愛野展望所附近で100m、吾妻岳附近では270mもの高さになっています。

この断層はあまり浸蝕を受けていない新しい断層で、非常に顕著な断層崖が20km以上も直線的に連続しており、一望できる断層地形の見本と言っていいでしょう。

また、千々石断層と対をなすように雲仙地溝の南縁に金浜断層、布津断層があります。



九千部岳から見た千々石断層



九千部岳・田代原の植物

この地域では、九千部岳周辺や九千部岳から田代原への谷の原生林のような自然林や牛首附近からの二次林、田代原の草原の植物、九千部登山口附近の植林と非常に変化に富んでいます。また自然歩道を彩る草花や林間の下生えの植物もそれぞれの場所と季節によって変化があります。



■ツクシヨウジョウバカマ

3月末から4月、林の中の遊歩道に沿って高さ10～15cmの花柄に数個の花を咲かせます。

花色は、咲いた時は白ですが、だんだん赤褐色に変化します。

■ノアザミ

5月～6月、田代原の草原のあちこちに群がり、赤紫色の花をたくさん咲かせます。春に咲くアザミはこのノアザミだけです。



■コゴメウツギ

5月中旬～6月中旬に日当たりの良い林縁で2mmに満たない白い小さな花を咲かせます。葉も小さく2cm～5cmで両面に軟毛が生え、葉の切れ込みに特徴があります。



■ヤマアジサイ

高さ1m程のアジサイで7月に鮮かな青い色の花を遊歩道沿いに見ることができます。希に淡紅色の花も見られますが、これは土壌の酸性度などにより花色が変化したものです。

■クサアジサイ

8月中旬～9月、ヤマアジサイの鮮かな青い色の花に代って、クサアジサイの淡いピンクの花が九千部～田代原への遊歩道沿いを彩ります。高さは60cm程で葉は互生します。



■センニンソウ

8月～9月にかけて田代原で上に向けた白い花を群がって咲かせるつる性の植物。花弁のように見える白い4弁のがく片が十字につき、たくさんのおしべがあります。(全草に毒があります)



■キバナアキギリ

9月このコースの遊歩道沿いに黄色い花をたくさんつける高さ20cm位のシソ科の植物。めしべは長く伸び花弁の外に出ます。



■ウンゼントリカブト

10月、青紫色の烏帽子に似た花をつける高さ1m程の多年草で、葉には著しい切れ込みが見られます。トリカブトは猛毒のアルカロイドを持ち、昔は毒矢の毒に使われていました。



■ウメバチソウ

10月、田代原の草原で10～15cmの茎に、一枚の葉と、一輪の5弁の梅鉢の紋に似た白い花をつけます。

■リンドウ(表紙左)

9月中旬～10月中旬、田代原の草原で紫色の花を咲かせます。茎の頂や葉腋に釣り鐘形の花を上におけてつけます。

* 九千部岳・田代原の野鳥・昆虫 *

吹越から九千部にかけては高密度でウグイスが繁殖し、ウグイスに託卵するホトトギスも多い所です。

牛首からはヤマドリやキジ、雲仙では珍しいカケスの声を聞くことができます。九千部から田代原への谷ではオオルリやミソサザイなどが繁殖し、田代原ではホオジロやカワラヒワが多く見られます。



☞ウグイス

全長15cm、雄は雌より大型で雌雄同色。体の上面は緑褐色、下面は灰白色、白色の肩斑がある。春、この地域では高い密度で繁殖しています。

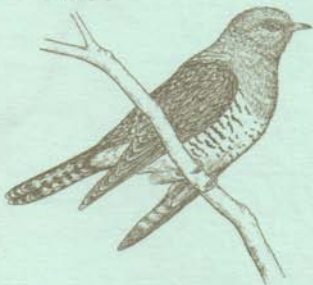
☞ヤブサメ

ウグイスの中間で全長10cmの日本の鳥の中でも最も小型級の鳥。尾羽が短かく、はっきりした白い肩斑があります。ヤブの中でシーシーと虫のような声で鳴きます。



☞ホトトギス

カッコウの中間で姿はよく似ていますがカッコウより小さく、全長28cm、ハトよりやや小型。ウグイスに特によく託卵します。トツキョキョカキョクとかん高い声で鳴きます。



☞ミソサザイ

全長約10cmで最も小型級の鳥。上面は全体的にこげ茶色、下面は灰褐色の地味な色の鳥ですが、小さな体からは想像できない程の音量で、長く複雑な歌を歌います。



☞ヤマドリ

雄の全長約120cm、雌は約55cm。雄は尾が長く、頭、頭、背が金属光沢のある赤銅色、雌は全体的に地味な赤褐色。昼は地上で活動し夜は樹上で眠ります。翼をはばたいてドドドという音を出します。

☞ホオジロ

全長約16cmでスズメよりやや大きい。雌雄ほぼ同色で全体的に茶褐色、雄は頭部の黒と白がはっきりしています。春、梢の先などで「一筆啓上候」とさえざりま



☞ダイコクコガネ

6月頃から田代原で見られます。前肢で穴を掘り球形にまるめた糞を運び産卵、幼虫は糞を食べて成長します。体長は2~2.8cmで、雄には頭に長い角、胸に2又の突起があります。



☞オオセンチコガネ

4月頃から、田代原で牛の糞に集まり、ダイコクコガネと同じく前肢で穴を掘り、糞を運び込み産卵します。体長は2cmほどで、金属光沢の強い美しい色の甲虫です。



☞ヤマボウシ(表紙右)

ちょうど梅雨の時期に花をつけ、谷一面を白く彩ります。4枚の白い大きな花弁のように見えるのは緑色で、中心に見える緑色の球がたくさん集まりです。

☞カケス(裏面表紙)

全長33cmで雌雄同色、雨覆いの青と黒と白の斑紋が目立ちます。姿はきれいな鳥ですが、鳴き声はジーエイと濁った声で、あまり良い声ではありません。英名は鳴き声からJayとなっています。